

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コミュニティケアペンギん (児発)		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・鹿児島県の中で2番目の人口を誇る地域で、医療的ケア児・重心障害児の療育機能を持つ事業所として行政・医療機関・保育所等の連携期間と密な連絡と情報共有を図り、利用児・家族の将来を見据えた援助を提供する。	・他のサービス提供事業と密な連携と情報交換を行い、利用児の日々の行動の変化や個別支援計画書に基づいたサービスを提供し、将来のあるべき姿に向かって支援をしていく。 ・保護者会などで不安やご意向などを保護者同士でも共有できる機会を作っている。	・家族、きょうだい支援を含め、地域の中の個人として、自立支援、利用児、家族本位のサービス提供を行い、利用児を取り巻く環境に対して、他事業所と協力しながら一体的な支援を行なっていく。
2	・入浴や延長支援ができることから、保護者のレスパイト支援も充実している。	・入浴や延長支援も必ず職員が2名以上の体制で支援に当たる為、利用児も安心してサービスを受けられる。また、医療的ケアが必要な利用児には保護者と何度も連携を図り、ご家庭に近い形での支援を行っている。	・担当者会議に継続して参加し、行政、医療機関、保育園等と具体的な目標設定を行い事業所としての役割を明確にし支援を行う。
3	・地域の方との交流の機会や、保育所との交流会を経験できる。また、園への入園に向けての実績があり、入園後のサポートも密に行っている。 ・今年度は就学に向けての移行支援も実施している。	・並行通園している利用児の支援では、園との密な情報共有を図り、個別支援計画書での情報提供やモニタリング報告書も共有している。また、入園に向けて同行支援や園への情報提供もアセスメントシートを活用している。	・地域のこどもとの繋がる仲間づくりの場を複数回提供し、インクルージョンの充実を図る。また、将来的な意向を見据えたライフステージを検討し将来の移行支援の充実を図る。 ・園に通われていない利用児には地域の園との交流の場を定期的に作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・定員が5名ということもあり、個別・小集団の活動提供はできているが、集団活動においては課題となっている。	児童発達支援と放課後等デイサービス合わせて5名定員の為、個別・小集団での活動となる。利用児の身体状況に合わせた支援が必要となるが、個室の部屋と生活スペースを分られ、集団でも活動できる環境はある。	・個別や小集団の活動を中心に行い、園や地域交流の機会でも集団に参加する機会を提供する。 ・定期的に他事業所との交流の機会を立て、集団の場を経験する機会を作る。
2	・非常災害時に備え、定期的な避難、救出などの必要な訓練を実施した後のご家族への報告が行き届いていない。	・避難訓練は年に2回以上実施しているが保護者様へ伝達不足がある。保護者会や広報誌で報告したが周知不足であったことが要因だと思われる。	非常災害に向けて年間計画に盛り込み、実施前に前には月間予定表や非常再訓練計画書を配布して保護者様へ周知する。また、保護者会で災害時のマニュアルや実施報告を行う為、ご参加していただけるように、早めの呼びかけを行う。
3	・地域の子どもと交流や、園との交流を図る機会が少ない。	・地域の子どもや園と交流する機会を設けているが、利用頻度もあり特定の利用児が参加する機会が多い。	・来年度は地域の子どもと交流する機会を個別に立てて実施していく。 ・地域の資源の活用や地域のイベントなどの情報を収集して家族で参加できる機会を作る。